

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホームほほえみ
(ユニット名)	はなユニット
所在地 (県・市町村名)	佐世保市
記入者名 (管理者)	池村やよい
記入日	平成 20 年 9 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気を大切にし、その人らしく暮らし続ける為、事業所独自の理念を作り上げている		今後はもっと地域の方にも理念を知っていただけるよう、広報活動を行なう
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を意識できるよう、室内や踊り場の階段に提示し、日々のサービス提供場面に(言葉かけ・態度・記録など)おいて、理念の実践に取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットの中に理念を記載している。8月には地域の方を招き、介護教室を開催し、理念の説明を行った。今後も地域の方に情報公開していく		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事などには参加し、地域の人たちと触れ合う機会はあるが、気軽に立ち寄ってもらえるような十分な交流は図れていない		ホームの方から出て行く機会を多く持つように努めているが、今後は地域の方にもホームに立ち寄っていただけるよう努めていく
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事(運動会・公民館祭り)への参加は出来ているが、自治会への参加は出来ておらず、関係を深めるには不十分である		今後は地域での行事ごとがあれば、声かけをしてもらい出かけて行きたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室の開催など、地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会などを行なっている。また、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行なっている		今後も事業所独自の介護教室を行うなど、地域に貢献していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で取り組むことにより、評価の意義についても理解を深めている。また、外部評価の結果を踏まえ、ミーティングで報告し、全員で話し合い改善に向けて取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所から取り組んでいる活動内容や、利用者の状況などの報告は行なえており、参加メンバーからも率直な意見を引き出し、改善に向けて取り組んでいる		固定された参加メンバーだけでなく、地域の人たちなど気軽に参加してもらえるような働きかけも行き、会議を今より更に活発化していきたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回グループホーム連絡協議会に参加しており、情報交換を行なうことで、サービスの質の向上へとつなげている。また、併設の高齢者支援センターとの連携により市町村との連携も取れている		今後は市町村との直接的な連携が取れるよう、市町村担当者にアドバイスをもらうなどして検討していきたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度について理解している職員は少なく、勉強会や研修などへの参加を検討中である		勉強会や研修に積極的に参加し、多くの職員が理解を深め、制度が必要なケースがあった場合には対応できるようにしていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については学ぶ機会がなく理解不足であるが、日々の実践の中で虐待行為でないか職員同士で声を掛け合い、確認するなどの取り組みを行なっている		勉強会やミーティングなどを実施する中で、高齢者虐待防止関連法についても学ぶ機会を作りたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には本人・家族にわかりやすい言葉で、安心感を得られるような対応を心掛けている。不安や疑問点をうかがいながら、十分に納得・理解した上での手続きを進めている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置しており、入居者が意見・不満などを外部へ表せる機会を設けている。意見などが出た場合はすぐに対応し、改善策を話し合った上で、運営に反映させるよう実施している		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りを通して、健康状態や暮らしぶりを伝えている。面会時には近況を伝えたり、何らかの変化や問題があれば、その都度、電話での報告をしている。金銭出納帳にて金銭管理の明細も報告している		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催、家族の参加もあり意見や思いを伝えられる機会を設け、出された意見は日々の運営やケアに活かしている		毎年、恒例となっているクリスマス会ではスタッフや家族同士の意見交換や交流の場となっている
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを多くとりながら、職員の声に耳を傾け、運営に反映させている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の要望や家庭環境にも配慮した勤務体制が組み立てられている。非常勤も含め、十分な人員が確保されており、緊急なシフト変更にも柔軟に対応できている		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員配置は固定化されているが、やむを得ず移動する場合は、引継ぎの時間を十分にとり、入居者や家族へのダメージを防ぐ配慮をしている		バランスシートや合同カンファレンスによって、スタッフ全員で入居者の状況を共有し、状態の把握に努めている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では全職員が参加の勉強会を定期的実施している。また、事業所外で開催される研修にも、気軽に参加できるよう案内を提示しており、働きながら学ぶ機会が確保できている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、会議に定期的に参加することにより、同業者と交流する機会が持て、事業所外の人材の意見や経験をケアに活かせるよう努めている		グループホーム連絡協議会だけでなく、他のグループホームとの勉強会などを通じて交流を深め、サービスの質を向上させていきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みや相談に対してすぐに話を聞くなど、対応できしており、ストレス軽減に向けて取り組んでいる。また、連休などで心身を休めることが出来るように、勤務にも配慮するよう心掛けている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	残業はほとんどなく、定められた就業規則はきちんと守られている。また、心身の健康を保つため年に1回健康診断が行なわれている。職員の資格所得に向けた支援も行なわれており、各自が向上心を持って働けるよう努めている		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	併設の病院からの入居が多く、事前に情報は得られるが、必ず本人とお会いして、ご本人の求められていることや不安を理解しながら、信頼関係が作れるように努力している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には家族とゆっくり話し合える機会を作り、相談をする家族の立場に立ってしっかりと受け止めながら、より良い信頼関係を築いていけるように努力している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で本人様・ご家族様・居宅のケアマネジャーと連携をとり、その人に応じ、必要としている支援に努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの入居者が利用前に家族やケアマネジャーと雰囲気をつかったり、入居者・スタッフとの交流に努めている。しかし、やむをえない理由で入居になる場合は、ケアマネジャーや馴染みのスタッフに相談していただくことで、混乱を少なくするよう努めている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いを共感したり、必要とされていると感じられるよう、教えてもらう場面が多くもてるように場面作りを工夫し、声かけや配慮をしている。(料理のコツや地域の歴史など)		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や来訪時に、入居者の様子を伝え、家族との情報交換を行なっている。そのことにより、本人を支えていくための協力関係が築けている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に本人の状況や要望を伝え、家族と一緒に過ごす時間を持てるよう協力を求めたり、また、行事に家族を誘い、より良い関係に努めている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙で連絡をとったり、併設のデイケアやデイサービスを利用し、馴染みの人との交流を保っている		認知症の進行、ADLの低下や家族の要望で交流が困難な方もいらっしゃるが、できる限り馴染みの場所や人との交流を持てるように努めていく
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性など、スタッフ間で情報共有している。個別に話を聞いたり、相談に乗ったりし、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役になっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も居宅のケアマネージャーと連携を図りながら情報交換し、継続的に関わりを持つようになっている。また、ホームにも気軽に来てもらうよう声かけを行なっている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者様との関わり、会話を大切にしており、本人の希望や意向の把握に努めている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は本人や家族、居宅のケアマネージャーの情報から把握している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムを大切にしながら、できることは無理なく行ってもらい、自然な形で持てる力が発揮できるような場面作りに努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を基に、その人らしい生活を送れるよう、職員全員でニーズをふまえ、課題を明らかにしている。入居者一人一人の特徴を捉えた具体的な介護計画の作成に努めている		面会時などに家族と相談し、意見を取り入れながら、個々に適したサービスの提供につなげている
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に応じた随時の見直しと、定期的な検討、見直しを行っており、状況に即した介護計画の作成に取り組んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルや毎日のバランスシートを用いて、入居者様の食事量、排泄回数から入居者様の日々の状態、伝達事項に至るまで記録し、職員全員が把握できるようにしている。また、記録を基に介護計画の見直し、を行なっている		常に介護計画の確認を行い、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様や家族様の希望に応じて、併設のデイサービス、デイケア、移動美容室、外出などの支援を行なっている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1回グループホーム運営推進会議にて家族様や民生委員、近隣住民の方々との意見交換をする機会を作っている。また、地域行事には積極的に参加して、ボランティアの受け入れを行なっている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様の希望や、体調に応じて、移動美容室を利用してもらっている。又、本人の希望があれば、併設のデイサービス、デイケアを利用してもらっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員もグループホーム推進委員会メンバーとして参加され、周辺地情報や支援に関する情報交換など、協力関係を図っている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族様の希望に応じて、主治医以外の専門医への受診も行なってもらっている。また、主治医とは随時連携をとり、適切な医療を受けられるように支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設の医療機関の医師に随時、利用者の状態報告や相談を行っており、医師からも認知症に関する診断や治療など、適切な指示や助言をもらいながら、個別支援が行なえている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、利用者一人一人の健康管理や、医療面での相談が気軽に行なえている。また、看護職員がいない時間は、併設の医療機関と連携をとりながら、医療的な支援が行なえている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族などとも情報交換しながら、本人の負担を軽減するためになるべく早く退院できるよう努めている		入院時は本人の不安や心配を少しでも軽減するため、職員が気掛けて見舞うなどしていきたい
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における医療処置の対応指針を定めており、できるだけ早期から家族・医師・看護師を交えて話し合いを行なっている。また、その際は本人や家族の思いを大切にしながら支援するよう心掛けている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者に対しては、本人や家族の意向をふまえ、医師と連携を図り日々安心して過ごせるよう取り組んでいる。また、急変時も併設の医療機関と連携を図り、すぐに対応できている		今後も本人と家族の意向を大事にしながら、安心して納得した最期がむかえられるよう取り組んでいきたい
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の住み替えによる不安や混乱を防ぐため、職員が納得のいくよう十分な説明を行う。また、移り住む先の関係者に対して本人のこれまでの暮らしの継続性が損なわれず、安心して生活できるように、プライバシーに配慮しながら情報を提供するよう心掛けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人の誇りやプライバシーを尊重し、常に入居者様の立場になって、言葉かけや対応に努めている。また、記録などの個人情報の取り扱いはきちんと出来ている</p>	<p>日常生活を支援していく中で、馴れ合いになってしまうことがあるので、再度、自分たちの立場をわきまえてケアに努めていきたい</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員本位にならないように、入居者様の自己決定を尊重し、何でも言い合えるような環境作りに努めている</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に入居者様が主体で、一人一人の望んでいるペースに合わせた支援に努め、一人一人の状態や思いに配慮しながら買い物、散歩などを行なっている</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望に応じて移動美容室を利用されたり、馴染みの美容室へいかれたり、入居者様の好みや意向に沿って支援しているが、衣服選びはほとんど職員が行なっているので、入居者様の選択肢が少ない</p>	<p>今後は入居者様の状況にもよるが、ゆっくりとした時間を作り、入居者様に衣服を選ぶ楽しさも提供できるように努めていきたい</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作りから食事の準備、食後の後片付けに至るまで、入居者様の個々の力を活かしながら、職員と一緒に行動することにより、食事を楽しむことが出来るように支援している</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居者様と共におやつ作りをしたり、希望される方には牛乳、ヤクルトなどを購入している。また、一人一人の状態に合わせて、毎日お茶の時間を作り、満足感が得られるように努めている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、一人一人の排泄時間や習慣を把握し、尿意のない入居者様にも時間を見計らって、声かけや誘導をしている。オムツやリハビリパンツを使用されている方へは、尿取りパットを使用していただき清潔保持に努め、できるだけ使わないような支援をしている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にバイタルチェックを行い、体調に応じて検討し、午前中に入浴していただいている。また、休日などに希望がある場合は、その都度対応している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握しており、遅くまで起きている入居者様にはその人のペースに合わせて、自由にテレビなどを見てもらっており入居者様一人一人の生活リズムを大切にしている。また、体力が落ちている方にはその都度、居室にて休んでいただいている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内での役割として一人ひとりに適したことを無理なく行なっている。入居者様も自分の仕事であると意識され、ホーム内でも必要性を感じていただけるように支援している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフの管理となっているが、使う楽しみを味わっていただけるように、月に1回饅頭の販売に来てもらっており、入居者様にも喜んでいただいている		月1回、饅頭の販売にホームへ来ていただいております。入居者様が商品を選んで買う楽しみや、お金を自分自身で所持し、使えるように支援しており、今後も続けていきたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その時々天候や、気候に応じて散歩やドライブなど行っており、希望がある入居者様にはスタッフとともに外出の機会を設けている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様が外出されたい場合は、職員の勤務調整を行い、出かけられるように支援している。また、家族の協力を得たり、場合によっては依頼することで、共に出かける機会を作っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人の電話は希望があれば、その都度行なってもらっている。手紙は本人へ直接手渡し、プライバシーに配慮している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様・友人・知人等の訪問時には、安心して訪れるような雰囲気作りを行なっている。お茶や入居者様と楽しくくつろげる場所の提供を行い、居心地良い空間作りを心掛けている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員の共有認識を図り、禁止の対象となる行為を理解して、身体拘束をしないケアを実践している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階玄関は防犯の都合上、鍵を掛けている。2階出入口はセンサーを設置しており、人の出入りを把握し、入居者の安全面に配慮している		入居者の出入りの把握を徹底して行なえるようにしていきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で記録などの事務作業を行い、さりげなく状態の把握を行なうようにしている。夜間は数時間毎に様子観察をし、24時間入居者の安全に配慮している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や刃物等は、日常生活の中で入居者とともに使用しているが、保管場所や管理方法については、職員間で統一した対応を行なうようにしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬の方法については、職員同士での日付け・名前の確認を徹底している。転倒などの危険があり人への車椅子使用や、一人一人の状態から予測される危険を検討し、事故防止を行なっている		服薬の際に、錠剤などの飲みこぼしがないように、飲み込みまで確認するよう努める

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に関する対応マニュアルが用意されており、それに基づいて対応を行なっている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回利用者と避難訓練を行なっている。消火器の使い方などの訓練も同時に行なっている		災害時には地域の人々の協力も必要となってくるため、訓練時には地域住民の参加を呼びかけていきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の安全を確保しつつ、様々な役割活動をスタッフが見守りながら、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応を心掛けて支援している。ご家族へは手紙や、面会時に随時説明し、理解していただいている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バランスシートや個人記録に体調の変化や、バイタルサインを記録に残し、また、申し送りをしていくことで、情報を共有するように努めている。必要に応じて医療機関へ受診している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より服薬カードを頂き、職員全員が確認できるようファイルされ、処方時には薬剤師からの指導を受けている。内服薬変更時にはバランスシートに記入して職員全員が確認し、理解できるようにしている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を心がけ、汁物や水分摂取量の少ない入居者様には、積極的に水分補給するように促している。下剤の調整や日頃より乳製品を多く摂るようにして、便秘を予防している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に義歯の手入れや、お茶を使用してのうがいを支援している。週に1回義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔を保持するよう心掛けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量のチェックは行なっているので、摂取状況は把握できており、水分補給にも努めている。栄養面については、定期的に管理栄養士の指導を受けている		一人一人の好みのもをメニューの中に取り込んでいきたい
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策委員会を設置しており、感染症の予防に努めている。また、毎食後、お茶でのうがいや、手洗いはペーパータオルを使用して、感染予防に努めている		今後も定期的に、感染予防についての勉強会を行なっていきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限チェック表を作成し、毎日確認を行なっており、調理器具はハイター洗浄後アルコール消毒をしている。週2回の買い物時には、新鮮な食材選びに努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花をプランターに植えたり、ウェルカムボードを設置し、玄関の窓には飾り付けをして、家族や近隣者が立ちより易い雰囲気作りをしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには入居者様の手作りの契り絵やカレンダー、塗り絵、また、季節感を味わって頂けるように草花など飾っており、居心地良く過ごせるように配慮している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは各居室にて過ごされたり、フロアーで過ごされる場合はソファーや移動式置、食堂席など入居者様同士で自由に過ごされている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れたテーブルや日用品を居室内に配置している。壁などには写真や好きな絵、自ら工作した作品を飾り、居心地の良さに配慮している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロア・居室は季節ごとに温度設定をしており、入居者様の身体に合わせて調節している。換気については、自動換気によりこまめに行なわれている		換気を心がけ、室内の空気がこもらないように配慮していく
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の自立を意識した工夫を行い、一人一人の状態に合わせ、手すり・浴室・トイレ・廊下などの居住環境を見直し、安全確保と自立への配慮を行なっている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状況に合わせて、環境整備に努めている。状態が変わり、混乱や失敗が生じた場合には、職員で話し合い本人の不安を取り除き、力を取り戻せるよう試みている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りやベランダでくつろいだりは出来ないが、建物の周りの神社へ車椅子や歩行で出かけたりしている。施設の玄関には花壇があり、水やりなどを楽しめるようにしている		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

定期的に受診や検査を受けたり、異常時には医師に連絡し指示を仰いでいる。また、看護職員を配置しており、24時間体制で常に入居者様の支援を行なっている。入所時は車椅子対応だった方が、室内では手引き歩行にまでADLが向上している。ほとんどの入居者様が週2～3回リハビリを実施している。また、ホームでは学習療法や塗り絵・体操に積極的に取り組んでいる。公民館祭り、町民運動会などの地域活動に積極的に参加し地元の人々との交流に努めている。敬老会・クリスマス会を開催し、入居者様や地域の方々との交流を行なっている。入所当初、発後が少なかった方が、毎日の他者との交流により話されるようになった。デイサービスやデイケアを利用し、馴染みの人との関係を保つように努めている。